

みんなの4575

みんなで創るみんなのページ。すてきな作品をお待ちしています！

旅みやげ 取りにこいよと する電話	河原田うた子 (今・岸脇)
ふり向くな 行は見えたる 朗らかに	池田よし枝 (今・今津)
風習に こだわりすぎて 世を忘れ	久米 良彦 (新・太田)
友達と おしゃべりするの おたのしみ	浅井きぬゑ (高・武曾横山)
ゴミ箱に カラス集まる 収集日	能町 寮 (高・城山台)
祝一年 川柳出して 没はなし	川根 秀生 (高・城山台)
昔なら あの世で遊ぶ 六十五	上山 惟裕 (高・城山台)
子や孫と 還暦祝う 我ここに	久保千榮子 (朽・野尻)
耳遠く 自分の声が 尚高く	鞍田 作枝 (新・饗庭)
いっどこで 会うかも知れぬ 偽と毒	井川 良三 (マ・大沼)
ほどほどに そう思いつつ 杯重ね	平井 真造 (安・上古賀)
年とりて 覚えた紙を 置き忘れ	川島 耕一 (安・長尾)
文句なし 我が地場米は 安心だ	中内 保男 (新・針江)
バスの旅 少し遠慮を する煙草	河原田 勝 (今・岸脇)
病床に 伏して思いは 遠き家	村田 ナミ (高・勝野)
財無くも 家族と暮らす 宝有り	曾根ケイ子 (新・饗庭)
ジーンパンの 青年が持つ 募金箱	丸岡亜希子 (新・藁園)

この年の イエスの恵みを 数えつつ	寺田 義輝 (マ・西浜)
九十三 おじい残して 先死ねん	前田 とみ (今・浜分)
ものわすれ 加齢とともに ひどくなり	益本さつき (マ・沢)
青空に 白線はしる 飛行雲	岩谷 純子 (マ・海津)
孫かこみ 一家揃って 福笑い	桑 洋一 (新・太田)
鍵っ子の 心に触れる 母のメモ	斉藤 光江 (安・今在家)
縫いぐるみ ヒロシと名付け 語りかけ	山田 明子 (今・今津)
妻も古希 喜怒哀楽の 共白髪	山本喜代治 (安・長尾)
我が里に 御殿と名の付 川田圃	土井登美雄 (安・三尾里)
紋白蝶 花に大切 葉つ葉で追い	土井 久恵 (安・三尾里)
年とって だんだんずぼらに まあいいか	森本 幸枝 (今・梅原)
逆境こそ 人の心が 見えかくれ	松本せつ子 (マ・海津)
逃げていた 太陽を探し 追いかける	井口 みよ (高・高島)
病氣して やっと気付いた 自分の年齢	中村 芳喜 (高・武曾横山)
落ち着けと 診察前に トイレ行く	坂尾 真一 (新・旭)

★投稿方法

郵便またはEメールで、投稿者氏名・住所・連絡先を書き添えて投稿してください。また、応募は一人1点とし、作品や氏名には必ずふりがなをお願いします。次回締切は2月28日、掲載は4月1日号・5月1日号です。

(秘書広報課)



お父さんお母さんへの手紙

お父さんお母さんへの手紙

入賞作品



優秀賞 「母へ、心の手紙」

佐藤せつ子 (長崎県) 56歳

お母さん、私は五十六才になった今を、精一杯に生きていますよ。あなたは私がどうにもならない困難に向かい合った時、必ず夢の中に現れて心の道しるべを示してくれますね。決して手の届かない遠いものとなってしまっても、母と子の絆とは永遠のものなのでしょう。その後の気掛かりといえば、心にぽっかりと空いた風穴を抱えたお父さんの事でした。私が実家に様子を見に行くと、あなたを偲んでか、寂しさを紛らわすようにテーブルの上に置かれた灰皿には、いつも煙草の吸い殻が山のようになっていました。やはり、言葉では言い表わす事の出来ない深いものだったのだと思います。以前は、元気に鉄をふるって野菜を作り、それが健康の秘訣だったのか、それまで大病のひとつもなかったお父さんでしたね。畑から帰る途中に私の家に寄って、季節の野菜を届けてくれる事もありました。煙草をふかしながら、「もう、昔みたいに元気はなかけん、ぼちぼちしか畑仕事はしきらん」と私に笑いかける、そんなお父さんが心配で実家を度々訪ねました。夕飯の支度をして待っていると、「おう、来たったね」と笑顔を受け、畑から帰ったばかりの仕事着についた土を手拭いで払っていた姿が懐かしく思い浮かびます。ふと、籠の中の取れたての夏野菜をのぞくと、わずかばかりのオクラや茄子、ふぞろい

のトマトなどが鮮やかに目に飛び込んできました。お父さんの好きな焼き茄子と酢の物などもサツと作り添えて、二人で向かい合う食卓も心温まる団欒であり、私にはまだ大切なお父さんがいました。頑固で無口でしたが、芯は優しく人情深い、そんなお父さんが私は好きでした。部屋の中にあつた日めくりのカレンダーが、たとえ非情に年月の移ろいを知らせているとしても、お父さんの心の中に生きているあなたの姿は、決して色褪せることはなかったでしょう。懐かしさをたぐり寄せ、一つ一つの思い出を愛おむように、深い皺に刻まれた鬚りのある横顔で私に語りかけ、胸がいっぱいになりました。八十四才で天寿を全うしたお父さんですが、皆が見守る最期の時、そのわずか数十分前に、ベッドのそばにいて突然と立ちつくす私の手を、いきなり力強く握んでグイッと引き寄せ、その上に自分の手を重ね合わせました。それから、自ら胸の上で「ありがとう」というように合掌し、とても穏やかな顔であなたの元に旅立たれました。お父さんは、残されていたありったけの「生」を振り絞り、真心で「これまでありがとう」という気持ちを伝えてくれました。「お母さん、最後にお父さんから、何よりも大きくて力強い愛情を貰いましたよ」悲しみの中にその偉大さを知り、そして、あの時の大きな手に私は誓いました。全てが自分の心の糧となり、波瀾万丈だった人生の荒波に再び打ちのめされないように、しっかりと生きていきます。その美しい蓮の上に座り、お父さんと共にこれからも私を見守っててください。

藤樹先生生誕400年を記念し募集した「お父さんお母さんへの手紙」には、全国から619通もの応募をいただきました。このコーナーでは、入賞された方の作品をシリーズでご紹介します。 図政策調整課 ☎(25)8114

自宅で大学の講義を受けてみませんか？
 テレビ等約300科目の授業を受講できる放送大学。
 4月入学生募集中です。(出願期間は2/28まで)
 まずはお電話を。資料(無料)を送付いたします。

放送大学 滋賀学習センター (東谷大学東キャンパス内)
 Tel: 077-545-0362 Fax: 077-545-2096

有料広告